

地域振興の基本方針の位置付け	あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出	総合計画での位置付け	7-(6)-ア			
プロジェクト名	あつみ温泉街の景観整備					
プロジェクトの目的	あつみ温泉の魅力の一つである「景観」のクオリティーの向上により、官民共通目標である「そぞろ歩きの楽しい温泉街」の到達度を高めます。					
プロジェクトの概要	開園から50年以上経過し老朽化が進んだ温海公園(あつみ温泉ばら園)を改修し、あつみ温泉の観光の拠点、市民の憩いの場としてリニューアルを進めます。また、桜並木の植替えや「かじか通り」等の劣化した休憩施設、照明設備、さらには朝市広場を観光客や地域住民の滞留拠点とするため、新たな足湯の整備や施設改修を行い、あつみ温泉街の景観整備を進めます。					
期待できる効果	景観整備により来訪動機が高まり、観光入込客の増加が期待できるとともに、地元商店街への経済効果が期待できます。					
関連成果指標	あつみ温泉及び鼠ヶ関地区内観光施設の観光入込客数(道の駅含む)					
	現状値	478千人(H29)	成果指標(KPI)		820千人(R10)	
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ温泉ばら園整備事業 ばら園のリニューアル				
	(2)	温泉街景観づくり事業 桜並木の更新、街路灯のLED化支援				
	(3)	朝市広場環境整備事業 店舗ブースの改修、足湯等の整備支援				

R1の事業内容 (取組状況)	<p>(1) あつみ温泉ばら園整備事業 基本計画に盛り込まれた事業項目の絞り込みを行う。</p> <p>(2) 温泉街景観づくり事業 老木化した桜10本を植替えする。また、温海温泉自治会が実施する街路灯のLED化を支援する。</p> <p>(3) 朝市広場環境整備事業 滞留拠点としての朝市広場の活用について関係者と協議を行った。</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPIの数値傾向についても記載	あつみ温泉入込客数については、H30で若干減少したが、未来事業による景観整備と賑わいづくり事業により目標達成が可能と見込んでいる。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2から3年間程度	<p>(1) あつみ温泉ばら園整備事業 ばら園整備区域の用地測量、実施設計、改修工事を実施予定。</p> <p>(2) 温泉街景観づくり事業 LED化については3カ年⇒2カ年で完了予定。</p> <p>(3) 朝市広場環境整備事業 関係者と協議した結果、あつみ温泉の中長期的な観光戦略を策定する中で、朝市広場の活用をどうするか検討していくこととした。</p>

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針


地域振興の基本方針の位置付け	あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出	総合計画での位置付け	7-(6)-ア			
プロジェクト名	あつみ温泉街の賑わいづくり					
プロジェクトの目的	魅力ある店舗の創出や魅力ある集客イベントの開催により、あつみ温泉の集客力や知名度の向上を図ります。					
プロジェクトの概要	<p>民間主導の集客効果の高いイベント開催を支援します。尚、2021年と2022年は、あつみ温泉「開湯1200年」「庄内藩の湯役所設置400年」の節目の年になることから、地域の旅館・商店など関係者と協議しながら、地域が一体となったインパクトのあるイベントを開催し更なる誘客に努めます。</p> <p>また、朝市広場を活用した日中の賑わいづくりや地元商店の自発的な取組み並びに新規出店者への支援により、温泉街の賑わいを創出します。併せて、温泉街の魅力向上のため、ばら等の植栽を施し、そぞろ歩きの楽しい温泉街の整備に努めます。</p>					
期待できる効果	<p>温泉街を周遊する観光客の増加と旅館や飲食店等への経済的波及効果に加え、地域住民のまちづくり参加意識と連帯感の醸成が期待できます。</p> <p>また、「食」に関する取組については、ユネスコ食文化創造都市としての住民意識の向上や質の高い食文化の認知度向上が期待できます。</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ温泉集客イベント実施事業 せせらぎの能、記念イベント開催支援				
	(2)	あつみフードPR事業 食を活かしたイベント開催支援				
	(3)	魅力ある店舗づくり事業 温泉街の空き店舗活用促進				
	(4)	温泉街フラワー整備事業 温泉街の花等の植栽活動支援				

R1の事業内容 (取組状況)	<p>(1)あつみ温泉集客イベント実施事業 第10回せせらぎの能を開催。</p> <p>(2)あつみフードPR事業 「朝市広場 DE ひるいち」の事業実施・開催を支援。</p> <p>(3)魅力ある店舗づくり事業 2020年から3カ年の事業予定。</p> <p>(4)温泉街フラワー整備事業 あつみ温泉の環境美化について関係団体と検討。</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	<p>(1)あつみ温泉集客イベント実施事業 あつみ温泉の知名度アップや能のファンを集客できたが、宿泊者の増加にはつながらなかった。</p> <p>(2)あつみフードPR事業 2019年度で支援が終了する「朝市広場 DE ひるいち」は、一定の集客があり日中の朝市広場の活用と賑わいづくりができた。2020年から新規事業となるイベントは、関係機関との調整、スタッフの確保が必</p>

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針

	<p>要。</p> <p>(3) 魅力ある店舗づくり事業 他団体等の支援事業との明確な区別が必要。空店舗を活用した新規出店者だけではなく、既存店舗を魅力あるものにする必要も必要。</p>
<p>事業展開（見直し）の方向性 ※ R2 から3年間程度</p>	<p>(1) あつみ温泉集客イベント実施事業 集客イベント実施事業は、来訪者や宿泊客の増加を図る必要がある。</p> <p>(2) あつみフードPR事業 関係機関との調整が重要であり、話し合いの結果による。</p> <p>(3) 魅力ある店舗づくり事業 関係機関の意見を伺いつつ、既存店舗を含んだ魅力ある店舗づくりを支援していきたい。</p> <p>(4) 温泉街フラワー整備事業 あつみ温泉の来訪動機となるよう花の植栽事業を行うまちづくり団体を支援し、景観の整備を図る。</p>

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出	総合計画での位置付け	7-(6)-ア			
プロジェクト名	魅力ある温泉観光地に向けた中長期戦略の検討					
プロジェクトの目的	あつみ温泉のあるべき将来像、目指す方向性を戦略的に展望し、魅力ある温泉観光地を目指します。					
プロジェクトの概要	あつみ観光協会や温海温泉旅館組合、地域住民、行政が連携し、あつみ温泉の中長期的な戦略策定を目指します。策定にあたっては、住民ワークショップやまちづくりアドバイザーの活用を図るとともに「新・湯治」も視野に入れ、官民共通認識のもと進めます。 ※「新・湯治」=平成29年7月に「自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に関する有識者会議」により提言された、現代のライフスタイルにあった温泉地の過ごし方の提案					
期待できる効果	あつみ温泉の戦略を策定し将来計画を明確にすることで、観光客のニーズに的確に対応でき、観光入込客数の増加に繋がることが期待できます。 また、「新・湯治」の活用は新たな温泉の利活用が期待できます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ温泉観光戦略策定事業 あつみ温泉の中長期観光戦略策定に向けた官民連携の取組				


R1の事業内容 (取組状況)	あつみ温泉の中長期的な戦略策定のためのマーケティング調査を行った。また、専門的な知識を有するアドバイザーを招聘し、あつみ温泉まちづくりの研修を行った
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	研修でアドバイザーからの指導を受け、温泉街の魅力づくりをどう進めていくか、関係者が共有することができた。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	マーケティング調査の分析をもとに、関係者と連携し、あつみ温泉の中長期的な戦略を策定する。

温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化	総合計画での位置付け	7-(6)-ア			
プロジェクト名	新「道の駅」を活用した地域振興					
プロジェクトの目的	日沿道の延伸により鼠ヶ関IC(仮称)周辺に建設が計画されている道路休憩施設(新「道の駅」)をフル活用した地域振興を目指します。					
プロジェクトの概要	新「道の駅」の経営に参画することも視野に入れ、マーケティング能力や経営の実践能力、管理運営能力を有する人材を育成します。					
期待できる効果	新「道の駅」のスムーズな運営や発展に加え、地域産物の販売促進による地域経済の活性化が期待できます。					
関連成果指標	あつみ温泉及び鼠ヶ関地区内観光施設の観光入込客数(道の駅含む)					
	現状値	478千人(H29)	成果指標(KPI)	820千人(R10)		
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	新「道の駅」運営関連育成事業 マーケティング能力や経営の実践能力、管理運営能力を有する人材育成	.....→			→

R1の事業内容(取組状況)	国土交通省の道路建設の進捗状況に応じて、本所の都市計画課と連携しながら進めることとしている。
事業の検証(推進上の課題等) ※ KPIの数値傾向についても記載	事業進捗状況によるが、鼠ヶ関地域の住民のみならず温海地域や全市的な取組も視野に入れる必要がある。 (山形県、東北地域の日本海側の南の玄関口として)
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2から3年間程度	新道の駅を総括的に運営できる人材を確保する必要があることから、公募や個別要請など、あらゆる手法を駆使しながら進める。

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化	総合計画での位置付け	7-(6)-ア			
プロジェクト名	既存「道の駅」の有効活用に向けた検討と施設整備					
プロジェクトの目的	日沿道の延伸後において、新「道の駅」を拠点とし、既存「道の駅」も含めた鼠ヶ関周辺地域の観光まちづくりを進めます。					
プロジェクトの概要	日沿道延伸後に国道7号の交通量減少が予想されることから、既存「道の駅」のあり方や有効活用策を検討し、必要に応じて施設の整備を支援します。					
期待できる効果	温海地域の新たな観光目的地としての機能が期待できるとともに、施設を拠点に広域的な周遊観光が可能になります。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	道の駅「あつみ」しゃりん整備事業 日沿道延伸後の施設運営のあり方検討と施設整備				

R1の事業内容 (取組状況)	
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	現在あるしゃりんの考え方にもよるが、新道の駅との関連を今一度見直す必要がある。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	庁内では検討しある程度の方向性は確認したものの、地域内や関係団体との協議は進んでいないことから、検討会議を開催するなど市民との総意を進める。

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化	総合計画での位置付け	7-(6)-ア			
プロジェクト名	鼠ヶ関地内の賑わいづくり					
プロジェクトの目的	みなとオアシスの構成施設となっている弁天島周辺エリアの環境整備により、鼠ヶ関に「人」を誘導する仕組みづくりや観光地としての魅力づくりを進めます。					
プロジェクトの概要	<p>専門家、有識者を招聘したワークショップ等を開催し、浜茶屋周辺施設(公衆トイレ等)の再整備や恋する灯台の活用等を検討し、まちづくりの方向性を共有します。そのうえで必要な施設整備を進めます。</p> <p>※恋する灯台＝埋もれていた「灯台」の文化や歴史的価値を可視化し、各地域の強力な観光資源とするために、灯台を『恋する灯台』という恋愛の聖地として認定し再価値化するプロジェクト。鼠ヶ関灯台が認定を受けた。</p>					
期待できる効果	観光入込客数の増加により、賑わい創出と地域経済の活性化が期待できます。また、ワークショップ等の開催は、地域住民の一体感の醸成につながる事が期待できます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	はなさき路の賑わいづくり事業 弁天島周辺エリアの魅力向上に向けた取組				

R1の事業内容 (取組状況)	鼠ヶ関自治会に今年度新たなワーキンググループを立ち上げたことから、ワーキンググループとの協議や検討を行う予定である。(冬季)
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	日沿道の進捗状況に合わせるのか、単独で整備計画を組むのか検討が必要。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	検討会議を経て整備計画を策定し整備につなげる。



温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大	総合計画での位置付け	7-(6)-イ			
プロジェクト名	交流人口の拡大による地域活性化					
プロジェクトの目的	地域内の宿泊施設や商店等の販売額増加による地域経済の活性化に加え、地域の伝統文化の保存継承や事業推進を通じた人材育成を図ります。					
プロジェクトの概要	<p>体験型旅行の受け入れ拡大や交流人口の拡大を目指す団体を引き続き支援するとともに、民泊（農泊）については、農家等の意向も考慮しながら受け入れ環境の整備を進めます。</p> <p>また、関川地区活性化計画の目標達成に向けて、しな織関係の売上増や交流人口の拡大を図るための取組を支援します。</p> <p>※関川地区活性化計画＝農山漁村振興交付金を活用した山村活性化を図るため、関川地区に地域資源活用施設を設置するにあたり、平成 28 年 4 月 1 日付けで「関川地区活性化計画」を策定した。内容は、関川地区の「しな織」を活用し、交流人口の拡大とともに地域産物（しな織関係）の販売額増加に取り組み、地域活性化を図るものである。</p>					
期待できる効果	地域団体毎に行ってきた体験型事業をネットワーク化することにより、地域全体を網羅した魅力的な着地型ツーリズムが構築され、旅行者の滞在時間の増加、消費行動の活発化による経済効果が期待できます。					
関連成果指標	教育旅行受入れ学校数					
	現状値	2校(H29)	成果指標(KPI)		12校(R10)	
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ体験旅行推進事業 教育旅行受入をはじめとする体験型観光の推進				
	(2)	関川地区活性化計画推進事業 交流人口の拡大としな織関連の地域産物販売額の増加				


R1の事業内容 (取組状況)	<p>(1)あつみ体験旅行推進事業 中学校2校の教育旅行を受け入れた(宿泊1校、日帰1校)。その他、小グループや個人客の体験事業を実施した。 (NPO 法人自然体験あつみコーディネットに対する支援)</p> <p>(2)関川地区活性化計画推進事業 関川しな織センター周辺を会場に「田舎のうまいもん食堂」を開催した。 (地元実行委員会に対する支援)</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	<p>(1)あつみ体験旅行推進事業 受け入れ態勢や体験内容が十分とは言えず、体験の要望に応えきれない場合がある。 教育旅行の受け入れ校数は当初とほぼ同水準で推移している。</p> <p>(2)関川地区活性化計画推進事業 「田舎のうまいもん食堂」のイベントにより、しな織関係の売上増や交流人口の拡大に努めた。しかし、イベント以外の日の交流人口の増加</p>



## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針


	は難しい。
<p>事業展開(見直し)の方向性</p> <p>※ R2 から3年間程度</p>	<p>(1)あつみ体験旅行推進事業 教育旅行については民泊(農泊)の要望があるが、受け入れ家庭がほとんどなく要望に応えられていないため、受け入れ家庭の掘り起しに努め、受け入れ学校数の増加に結び付けたい。</p> <p>(2)関川地区活性化計画推進事業 関川地区活性化計画の目標達成のため、地域と連携し新たなイベントを開催し、来訪者からリピーターになってもらい交流人口を増やしていく。</p>

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大	総合計画での位置付け	7-(6)-イ			
プロジェクト名	関係人口拡大の仕組みづくり					
プロジェクトの目的	新たな「地域づくりの担い手」となる人材を温海地域に迎え入れることで、人口減少が背景となって発生する諸課題の解決、地域の総合的な活性化を図ります。					
プロジェクトの概要	<p>地域を離れた人材や地域と多様な関わりや想いを持つ人材を関係人口として、関係人口の受け入れや活躍できる仕組みを構築します。</p> <p>手順としては、先進地視察やセミナー開催により地域住民の意識の醸成を皮切りに、ふるさと支援や情報交換を活発にする「プラットフォーム」の立ち上げとそれを運営する中間支援団体の育成を進めます。</p>					
期待できる効果	各自治会が関係人口を「地域づくりの担い手」として受け入れ、交流を進めることにより、地域の伝統文化や産業、安全安心な生活等の維持に加え、空き家活用なども含めた地域の総合的な活性化が期待されます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域支援ネットワーク推進事業 関係人口受け入れを促進するプラットフォームの構築				

R1の事業内容 (取組状況)	<p>10月26日(土)に、月刊「ソトコト」編集長の指出一正氏を講師に迎え、地域デザイン講演会を開催。約100名参加。</p> <p>演題:「わたしたちは地方で幸せを見つける」～関係人口のつくり方～</p> <p>また、年度後半は、関連する各種セミナーへの参加や庁舎内プロジェクト会議を通して、関係人口についての理解を深める計画である。</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	<p>施策のテーマが幅広であるため、行政内部の関係部署や自治会、関係機関と情報共有し、歩調を合わせて取り組む必要がある。</p>
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	<p>関係人口の受け入れや活用できる体制を構築し、地域づくりの担い手不足という課題解決を図ることを目標にしている。当面は、行政内部において理解を深める取り組みを中心に、温海地域に適する効果的な手法を調査・研究するものとする。</p>

温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化	総合計画での位置付け	7-(6)-ウ			
プロジェクト名	地域の食文化継承による地域振興					
プロジェクトの目的	古くから栽培されている在来作物等の継承や認知度向上により、生産者の所得向上と地域経済の活性化を図ります。					
プロジェクトの概要	当面は、焼畑あつみかぶと越沢三角そばの振興を目標とし、焼畑あつみかぶについては、2019年中のGI登録を目標にブランド力向上を支援し、越沢三角そばについては生産規模拡大を支援します。					
期待できる効果	トップブランドの地域特産品としての知名度に加え、地域の認知度向上が図られるとともに、在来作物等の保存継承、生産者の所得向上による地域経済の活性化が期待できます。					
関連成果指標	越沢三角そばの栽培面積					
	現状値	25,160 m <sup>2</sup> (H29)	成果指標(KPI)	80,000 m <sup>2</sup> (R10)		
	焼畑温海かぶの販売単価					
	現状値	209 円/kg(H29)	成果指標(KPI)	230 円/kg(R10)		
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域在来作物振興事業 食文化継承とブランド力向上を目指す取組支援				

R1の事業内容 (取組状況)	「焼畑あつみかぶ」のGI登録が遅延していることから、その周知活動には取り組んでいない。 「越沢三角そば」は、栽培農家数の増加と他品種栽培農家が「越沢三角そば」栽培に転換したことで栽培面積が拡大し、R1で63,130 m <sup>2</sup> となった。打ち手の育成活動も計画通り取り組んだ。
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPIの数値傾向についても記載	「焼畑あつみかぶ」のGI登録は、漬物加工業者や市内の他の産地との調整が障害となっている。関係者からは、種子も含めて、生産者の後継者育成が進まない現状から、今後、温海地域の「焼畑あつみかぶ」が衰退する懸念が聞かれている。 「越沢三角そば」は栽培面積が急速に拡大したことで、収穫・製粉体制の見直しと消費拡大に向けた対応を急ぐ必要がある。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2から3年間程度	温海地域の伝統である焼畑文化が将来に渡って伝承され、「焼畑あつみかぶ」の生産者の若返りも図り、温海地域を代表する農産物として、市場に供給する体制の構築を図る。 越沢三角そば生産組合が導入を計画している製粉機の導入を支援するとともに、周知活動の強化と消費拡大に向けた活動を支援する。

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針


地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化	総合計画での位置付け	7-(6)-ウ			
プロジェクト名	高齢農業者の生きがいづくり					
プロジェクトの目的	少量多品目でも流通できる仕組みづくりや鳥獣による農作物被害を軽減する取組により、高齢農業者も生きがいを持って農業を続けられる環境整備を図ります。					
プロジェクトの概要	道の駅「あつみ」しゃりんの集荷システム強化や産直カー配備に対し支援するとともに、産直組織の一本化を視野に入れた検討を行います。また、鳥獣忌避作物の被害防止効果調査を実施するとともに、苗購入に対し支援します。					
期待できる効果	新「道の駅」における地域産物の販売体制や学校給食への安定供給体制が確立され、生産者の生産意欲の向上や所得の向上による地域経済の活性化が期待できます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業 地域内農産物の集荷システムの構築				
	(2)	生産組織活動基盤強化事業 「野菜づくり」生産者の育成と産直組織(一本化)の機能強化				
		鳥獣被害防止対策モデル事業 鳥獣忌避作物の被害防止効果調査と栽培支援				
	(3)	小ロット農産物生産活動支援事業(新規) 「しゃりん」が農家に電気柵を貸し出し産直で販売する農産物の増加を図る。 本事業用の電気柵の購入に対して市で補助をする。				
R1の事業内容(取組状況)	<p>(1) 温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業 集荷体制整備支援は計画通り推移している。「焼畑あつみかぶ」の集荷量の増加に向けた地域への働きかけにも取り組んでいる。また、森の産直カーの整備についても計画通り事業が完了した。</p> <p>(2) 生産組織活動基盤強化事業 産直組織の代表者との会議を重ねている。</p> <p>(3) 鳥獣被害防止対策モデル事業 地元の生産団体に鳥獣忌避作物(青とうがらし)の栽培を産直生産団体に委託して被害防止効果調査に取り組んだ。</p>					

温海地域まちづくり未来事業の展開方針

<p>事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載</p>	<p>(1) 温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業 集荷体制整備支援は計画通り推移している。「焼畑あつまかぶ」の集荷量の増加に向けた地域への働きかけにも取り組んでいる。また、森の産直カーの整備についても計画通り事業が完了した。</p> <p>(2) 生産組織活動基盤強化事業 会議において産直組織の一本化以前に「野菜づくり」に取り組む人がいなくなることが課題として明らかになった。今後とも小ロット農産物の生産を継続していくためには後継者の育成にも取り組んでいかなければならない。 地域の高齢者が狭い畑で多くの季節の野菜づくりを行っていることが中山間地域の特性であり、その栽培技術を次の世代に伝承していくことも中山間地域を維持していくためにも重要である。</p> <p>(3) 鳥獣被害防止対策モデル事業 鳥獣忌避作物(青とうがらし)の栽培は農作物の被害防止にはつながらなかった。今回の調査でセンサーカメラによりサル行動が映し出され、自作のネットでは防止できなかったことも検証された。 現時点において、鳥獣被害防止で最も効果が期待されるのは電気柵である。しかし、価格が高額である一定の補助があっても自己負担が大きいことから取り組みに至らずに小ロット農産物の生産から離れてしまう場合もある。</p>
<p>事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度</p>	<p>(1) 温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業(廃止) 主ロット農産物集荷体制が整ったことから支援は行わず「しゃりん」の自主運営とする。</p> <p>(2) 生産組織活動基盤強化事業 「野菜づくり」に関心のある方を集め、産直組織の構成員が講師となり「野菜づくり」を体験・学習させることで、将来の「野菜づくり」生産農家に仕向けていく。</p> <p><b>鳥獣被害防止対策モデル事業(廃止)</b></p> <p>(3) 小ロット農産物生産活動支援事業(新規) 「しゃりん」が農家に電気柵を貸し出して小ロット農産物の生産を支援し、産直で販売する農産物の増加を図る。「しゃりん」の貸し出し用電気柵の購入に対しては市で補助をする。 KPI;「しゃりん」に出荷する農家数</p>

温海地域まちづくり未来事業の展開方針

(追加)

地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化	総合計画での位置付け	7-(6)-ウ			
プロジェクト名	地域の食文化継承による地域振興					
プロジェクトの目的	再造林の推進と伝統農法である焼畑の継承を組み合わせた森林循環の仕組みづくりにより、健全な森林の育成を図り、活力ある中山間集落の維持につなげる。					
プロジェクトの概要	伝統農法である皆伐跡地での焼畑による「あつみかぶ」等を生産し、その収益を植林から保育管理までの費用に充て、森林所有者の保育経費が軽減される森林循環の仕組み作りを支援します。					
期待できる効果	森林循環により、森林の若返りと林業振興が図られるとともに、深刻な課題となっている伝統農法の継承、雇用の創出により中山間地域の活性化が期待できます。また、「森林資源の循環利用によるあつみかぶ栽培」の取組が付加価値となり、「あつみかぶ」のブランド力の向上も期待できます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	再造林と焼畑を組み合わせた森林循環の仕組み作り支援 (中山間集落モデル農林業実践事業)				

R1の事業内容 (取組状況)	現状の把握及び事業自立に向けた経営方針の確認のためのコンサルへの委託、販路拡大、規格外品による加工品製作への支援を行っている。
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	事業規模(栽培面積等)を今以上(1ha)拡大することは、困難なため、売上を上げるには、販売単価アップ、規格外品の販路確保や加工品の開発も必要と思われる。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から 3 年間程度	今年度のコンサルの結果を踏まえ、2023 年補助金なしでの事業自立に向け、付加価値を高めるための販売方法等を継続して検討。伝統農法の継承では、栽培・生産技術、加工品等を記録保存し次世代へ継承する。 活動を展開しながら、森林からの安定した収入や雇用の確保、再造林による健全な森林の育成を図り、中山間地域の活性化につなげる。


温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化	総合計画での位置付け	7-(6)-ウ			
プロジェクト名	地域資源を活用した農山村集落の活性化					
プロジェクトの目的	地域資源の発展的コラボレーションや未利用資源の活用により、地域に新たな価値を創造し地域経済の活性化を図ります。					
プロジェクトの概要	しな織と鶴岡シルクのコラボレーションによる新製品の研究開発を進めます。また、しなの木の花等を活用した新商品のPRや、新たな製品の研究開発を産官学連携により進めます。					
期待できる効果	地域経済の活性化とその事業化による雇用創出が期待されます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業 しな織と鶴岡シルクのコラボレーション模索				
	(2)	しなの花活用プロジェクト事業 しなの木の花を活用した新製品研究開発				

R1の事業内容 (取組状況)	<p>(1)糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業 国県補助事業として「羽越しな布振興協議会」が取り組んでおり、鶴岡シルクと協議を進めている。</p> <p>(2)しなの花活用プロジェクト事業 前年度に販売開始したしなの花コスメを引き続き販売する。 また、新商品の試作を行う。</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	<p>(1)糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業 原材料が限られていることで、山形県産業技術センターとの協議も必要となった。</p> <p>(2)しなの花活用プロジェクト事業 しなの花の採取量や品質が、天候などに左右され原材料の安定供給に不安が残る。また、商品ごと売れ行きに差異があり、一部商品に在庫量が大きくなっている。</p>
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	<p>(1)糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業 国県との協議も必要だが、単年度の取り組みではなく次年度も引き続き取り組む必要がある。</p> <p>(2)しなの花活用プロジェクト事業 原材料の供給や商品の製造販売についてのノウハウの蓄積に努める。</p>




温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化	総合計画での位置付け	7-(6)-エ			
プロジェクト名	時代に即した情報伝達手段の構築					
プロジェクトの目的	ICTを活用した「生活支援サービスも統合した新たな情報伝達システム」の構築により、人口減少や高齢化の進行に伴う地域課題の解決を目指します。					
プロジェクトの概要	<p>各自治会の重要な情報伝達手段として長年活用してきた「有線放送」設備が老朽化し、維持管理に苦慮している現状を踏まえ、ICTを活用した新たな情報伝達システムの調査研究を進めます。</p> <p>手順としては、先進事例調査や生活支援ニーズの調査分析を行い、その結果を踏まえ集落懇談会や庁内プロジェクトにおける検討を経て、システムの方向性を検討し、モデル地区での実証結果を評価分析しながら本格稼働を目指します。</p>					
期待できる効果	住民が音声に加え文字により情報を得ることが可能になり、不在時の聞き漏らしがなくなります。また、生活支援サービスを付加することにより、生活の利便性の向上が図られ、定住促進が期待できます。					
関連成果指標	集落ビジョン策定自治会数					
	現状値	11自治会(H29)	成果指標(KPI)	27自治会(R10)		
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	ICTを活用した課題解決研究事業 ICT活用の情報伝達や生活支援の仕組み構築に向けた調査研究				

R1の事業内容 (取組状況)	総務省東北総合通信局が実施する、市町村が抱える地域課題について、IT企業等から解決手法を提案してもらう「地域課題解決マッチング会」に応募しており、IoT技術を活用した解決策を提案してもらう予定。
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPIの数値傾向についても記載	新たな情報伝達手段については、令和元年6月に発生した山形県沖地震も踏まえ、温海地域に関わらず全市的な課題として検討していく必要がある。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2から3年間程度	防災担当課では災害時の情報伝達手段について検討する予定であり、庁内関係各課と連携しながら、安価で簡単に確実な情報伝達手段について検討していく。


温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化	総合計画での位置付け	7-(6)-エ			
プロジェクト名	地域コミュニティの基盤強化					
プロジェクトの目的	広域的な活動や交流の拠点となっている施設の機能強化を図ることにより、広域コミュニティの活発化や地域コミュニティの維持振興を目指します。					
プロジェクトの概要	広域的な利用に供している施設(温海ふれあいセンター等)については、その活用方法や管理形態を見直したうえで、施設の躯体や設備等の長寿命化を実施し利用促進を図ります。					
期待できる効果	地域コミュニティの補完機能の発揮に加え、施設の長寿命化や市民需要に見合った施設利用が図られます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	地域コミュニティ基盤強化戦略事業 広域的なコミュニティ施設の利用促進と機能強化				

R1の事業内容 (取組状況)	<p>温海ふれあいセンターについては、指定管理者である生涯学習振興会と連携し、市民需要に見合った施設利用・施設利用者の増加に向けて施設内に施設利用に対しての意見箱や、各事業・講座等参加者へのアンケートを実施し市民需要の把握に努めている。</p> <p>また、各事業・講座等の振り返りを行い、市民需要に合った内容で実施できるように努めており、多目的ホール等の利用条件の緩和についても検討している。</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	<p>山形県沖地震の影響による施設の被災や施設整備後 30 年以上が経過したことによる経年劣化、塩害による劣化が予想以上に進んでいる。(30 年以上そのままの設備が多く更新時期が過ぎている設備も多い。)</p>
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から 3 年間程度	<p>市民需要を踏まえた利用促進を図りつつ、令和 2 年度に施設の長寿命化計画(施設利用者の増も含めた計画)を策定し、令和 3 年度以降に必要な施設改修を実施したい。</p>


温海地域まちづくり未来事業の展開方針

(新規)

地域振興の基本方針の位置付け	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備	総合計画での位置付け	7-(6)-エ			
プロジェクト名	資源を活かした地域活力の創造					
プロジェクトの目的	地域の特色を活かし、若者たちも安心して暮らし続けられる基盤としての子育て環境の充実確保を図り、人口減少に歯止めかける。					
プロジェクトの概要	園児の減少により廃園が危惧されている福栄保育園の存続又は活用を図るため、福栄地域が有する自然や文化などの「資源」を活かした魅力ある保育環境の整備を図る。					
期待できる効果	子育て世代に支持される保育環境を整備することで、福栄保育園存続の可能性や、子ども向け体験事業の実施による交流人口の増加、子育て世代の流出抑制が期待される。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	自然資源を活かした保育環境整備による定住促進事業 福栄をフィールドとした特色ある保育環境の整備				

R1の事業内容 (取組状況)	現状や今後の対策等について、あつみ福祉会、福栄地区各自治会、福栄地域協議会「福の里」、福栄活性化助け合い協議会、地域おこし協力隊、その他関連団体と協議し共通認識を図る。
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	行政、地域、あつみ福祉会など多様な主体による事業展開が必要になるプロジェクトであるため、危機意識の共有と主体性をもった事業推進がポイントとなる。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	豊かな自然環境、伝統文化に恵まれた福栄地域において、自然とのふれあい、体験を通し、子どもの感性を磨き、健やかな成長を育む「里のほいく」の可能性を探るための研修や体験事業を実施する。 仮に閉園が避けられなくなったとしても、保育園・旧福栄児童館施設を子ども向け自然体験の拠点としての転換を図るための準備を進める。

## 温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備	総合計画での位置付け	7-(6)-エ			
プロジェクト名	資源を活かした地域活力の創造					
プロジェクトの目的	温海地域内に存する遊休資産、特に廃校の利活用については、市場性の有無や実現性の高い事業スキームについて、想定される事業者との対話により検討を行い、その活用の実現を目指します。					
プロジェクトの概要	廃校等の活用事例の視察調査や条件整理等を通じて活用イメージづくりを進めます。併せて、遊休資産のサウンディング型市場調査を実施し、ノウハウを有する民間事業者との対話により施設の利活用手法を探ります。					
期待できる効果	地域内の遊休資産の有効活用が見込めるとともに、活用手法によっては、地域内雇用が期待されます。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	遊休資産等利活用に向けた市場調査事業 廃校利用の検討と民間ノウハウ活用に向けた取組				

R1の事業内容 (取組状況)	関係自治会長との意見交換 廃校活用事例の視察研修(第一地区自治会役職員視察研修) 全国的な廃校活用の事例調査
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	旧五十川小学校は校舎の一部を福祉施設として活用しており、旧福栄小学校の一部は養蚕業の振興に活用している。旧山戸小学校については、民間からの問い合わせ等もあり、現段階では、その活用について積極的に動けない状況である。
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	全国的な廃校活用の事例調査を先行して実施する。特に、活用用途だけでなく活用までのプロセスについても調査研究を進める。

温海地域まちづくり未来事業の展開方針

地域振興の基本方針の位置付け	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備	総合計画での位置付け	7-(6)-エ			
プロジェクト名	地域に即した交通手段の確保					
プロジェクトの目的	地域に適した公共交通体系を構築することにより、今後増加が予想される交通弱者等の移動手段の確保を目指します。また、地理的要因により通学費負担が大きい高校生世帯を支援することにより、条件不利地であっても、地域を離れず将来にわたり暮らし続けられる生活環境の確保を図ります。					
プロジェクトの概要	<p>温海地域公共交通網形成事業については、現状分析や事例収集を通じて事業手法を検討し、集落懇談会等で地域住民とも対話しながら地域に適した公共交通網を構築します。</p> <p>高等学校等生徒通学費支援事業については、一定額以上の通学費を負担している高等学校等生徒保護者に対する支援を行います。</p>					
期待できる効果	<p>交通弱者等も利用しやすい公共交通網を整えることで、買物、通院等への負担が軽減され、住み続けられる生活環境が整備されるとともに、公共交通ネットワークの形成により、人口減少に対応した都市機能の集約化、効率化が図られます。</p> <p>また、高等学校等生徒通学費支援にあつては、地域外への人口流出(転出)の抑制、地域差による子育て世帯負担の軽減、通学利用による公共交通機関の利用率向上が期待できます。</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域公共交通網形成事業 地域に適した移動手段構築に向けた取組	→			
	(2)	高等学校等生徒通学費支援事業 一定額を超える通学費負担に対する支援	→			

R1の事業内容 (取組状況)	<p>(1) 温海地域公共交通網形成事業 専門家のノウハウを活用し、温海地域の公共交通のあり方について調査検討を進めている。</p> <p>(2) 高等学校等生徒通学費支援事業 支援制度を確立させ、通学支援を実施している。</p>
事業の検証 (推進上の課題等) ※ KPI の数値傾向についても記載	<p>(1) 温海地域公共交通網形成事業 調査検討は計画通り進んでいるが、新たな地域公共交通に対する住民理解が肝要である。</p> <p>(2) 高等学校等生徒通学費支援事業 想定よりも申請件数が少ないため、制度PRが今後の課題である。</p>
事業展開(見直し)の方向性 ※ R2 から3年間程度	<p>(1) 温海地域公共交通網形成事業 令和2年10月から、新たな地域公共交通の試験運行を開始し、検証、見直しを重ね、より良い手法を構築のうえ本格運行を目指す。</p> <p>(2) 高等学校等生徒通学費支援事業 制度や趣旨のPRをしつつ支援を継続する。</p>